



平戸

令和元年 9月30日
横浜市立 平戸 小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町 542 番地
Tel.045-821-2329

「叱る」と「怒る」

学校長 菅原 久忠

令和元年度もこの10月で前半期を終わります。多くのまちの皆様、ご家庭の皆様に支えられ、子どもたちが成長している様子を実感しております。

それぞれの学年での学習や活動は、今まさに充実の時期を迎えています。後半期も引き続きご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

先日、卒業生が計画した同窓会に参加した際に、子どもたち（今は、アラフォーと呼ばれる世代だと、自分たちで言っていました）が話題にしていた話です。

ある日のできごと。子どもが、台所で自分（母）の手伝いをしていたところ、誤って5枚1組のやや高価な皿をこわしてしまった。そのとき、自分は、子どもに「どうするのよ。こんな高い皿をわっちゃって。この前も、あなた、こわしたじゃないの。いつもなんだから。あなたはそそっかしいのよ。もう手伝わなくていい。あっちへ行って勉強でもしなさい。」と、大声で怒ってしまった。子どもに「もうお母さんの手伝いや家のことなんか、絶対に、絶対にやらない！」と言わせてしまったことがある。その後、すぐに気になって改めて。本来ならすぐに「そんなに心配しなくていいのよ。お母さんが忙しいのをみて、手伝ってくれたのだから。ありがとう。でも、もう少し注意してやったらわらなくてすんだかもよ。」と言っていたらよかったのに、自分の言い方に反省した。

話を聞いていた子育て世代の卒業生たちも似たような経験があり、その後、ひとしきり共感したり悩みを打ち明けたりしました。私も自分の子育てや教え子たちと過ごしたときを振り返ることができました。

以前、作家の三浦綾子氏が、子どもを叱る基準に次の4つのことをあげていたのを思い出しました。

「責任を果たさぬとき」「自分の罪をごまかすとき」「他人に不親切なとき」「嘘をつくとき」

叱られた経験の少ない子どもは、大人の叱責に過度に反応し、反抗したりふてくされたり、ふさぎこんだりするのかもしれませんが。子どもの心の成長には、しっかりと叱られる経験も必要だと思います。

ところで、卒業生たちと話をしていたときに、「叱る」と「怒る」の違いについて話題になりました。

- ・「怒る」とは、怒り手の感情を外に爆発させること
- ・「叱る」とは、相手によりよい方法を教示すること

似ているようで、全く違います。「怒る」は、ネガティブ、「叱る」は、ポジティブな意味があるように思います。トゲのある否定語が、子どもの自己肯定感などを低下させてしまったり、私たち大人からその感情的な対処法を学んでしまったりするのかもしれないと感じることがあります。

子どもを叱る場面とは、私たち大人の問題解決能力を披露する場。お手本になる対処法を示してあげたい、そう未熟な我が身を振り返り、感じているところです。